

各 位

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における聖火台へのENEOS水素燃料供給について ～聖火リレートーチ（※）にもENEOS水素が使用されます！～

当社（社長：大田 勝幸）は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」）において、聖火台および聖火リレートーチ（※）向けの燃料として、東京2020オフィシャル水素「ENEOS水素」を供給しますので、お知らせいたします。

この度、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、「組織委員会」）が、大会史上初めて、聖火台および一部の聖火リレートーチの燃料を水素とすることを決定いたしました。これを受けて、当社は、オリンピックスタジアム（国立競技場）に設置される聖火台（大会開会式および閉会式で使用）および東京・お台場地区の「夢の大橋」に設置予定の聖火台（大会期間中に使用）に「ENEOS水素」を供給し、大会期間中の聖火の炎を絶やさぬよう、安定供給を通じて大会を盛り上げます。

また、聖火リレートーチは、主にLPガスを燃料として使用し、当社グループ会社であるENEOSグループが燃料を供給しますが、今回新たに決定された水素を燃料とする一部の聖火リレートーチ（※）では、聖火台同様、当社が供給する「ENEOS水素」が使用されます。

当社には、東京1964オリンピックにおいて、聖火の燃料である灯油とガスを供給した歴史があります。そして、半世紀を経て開催される東京2020大会においては、聖火に加え、大会用車両として投入される約500台の燃料電池自動車（以下「FCV」）にも、「ENEOS水素」を供給いたします。聖火およびFCVへ、使用時にCO₂が発生しない水素を供給することにより、持続可能性に配慮した大会準備・運営を目指す組織委員会の取組みをサポートしていきます。

東京2020ゴールドパートナー（石油・ガス・水素・電気供給）である当社は、世界が注目し、水素が本格利用される東京2020大会に水素を供給するサプライヤーとして、そのムーブメントを未来につなげるため、今後、FCV等の運輸分野にとどまらず、発電や産業プロセスなど幅広い分野における水素の普及に向けて、積極的に取り組んでまいります。

※水素を燃料とするトーチが使用される聖火リレー：福島県、東京都、愛知県の一部区間

以 上



とどけ! 熱いエネルギー ENEOS

【参考】当社が聖火台に供給する水素について

開閉会式の聖火台に当社が供給する水素は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）および経済産業省との連携のもと、復興の地・福島県の「福島水素エネルギー研究フィールド」（福島県浪江町）において、製造されたもので、これを日本発の先駆的な取組みとして、世界に発信していきます。



JXTGは、社名もENEOSへ！

※ 2020年6月に開催予定の定時株主総会で定款変更が承認されることを条件に、同日日付で変更いたします。



とどけ! 熱いエネルギー ENEOS